

政務活動費成果報告書

令和3年7月19日

犬山市議会

議長 三浦ちさと様

議員名 柴山一生

下記のとおり、日本自治創造学会研究大会の成果を報告いたします。

(1) 年月日	令和3年5月20日(木)～令和3年5月21日(金) (泊 日)
(2) 場所	ZOOM
(3) 形態	会派(清風会):その他()
(4) 内容	今回は、新型コロナの影響で、本来なら東京の池袋にある平成帝京大学で開催されるはずだったがZOOMとなった。 二日間に渡って、10人余りの講師の講義やシンポジウムがあった。内容は、やはりコロナによる新しい社会の形や、どのようにリモートを使って今まで以上の結果を出せる仕組みを作っていくべきなのかを模索するヒントをたくさん提示された。
(5) 成果・提言	多くの講師の中で、最も印象に残りまた現場に活用できると感じたのは、通商産業省の浅野大介氏の話だった。「リモートデジタルへの挑戦」ということで、教育現場にどのようにデジタルが活用されているかを多くの実例を提示しながら説明して下さった。(詳細は、別紙を参照ください。)



浅野大介氏の講義

印象に残ったのは、経産省でありながら、文科省の分野である教育に関わっていくということは大変意味のあることだと主張されたこと。彼は、経産省教育産業室長として2018年に有識者会議として「未来の教室」とEdTech研究会を立ち上げた。デジタル技術を活用した教育技法であるEdTech(エドテック)。そして、時代の変化に合わせた新しい教育「未来の教室」に向けた教育改革の柱として、「学びのSTEAM化」「学びの自立化・個別最適化」「新しい学習基盤づくり」の3つの柱が提案された。

以下は、他の文献から彼の最近の話題にしているテーマを挙げる。

STEAMとは、Science Technology Engineering Art Mathematicsだそう。

振り返れば、大正自由教育運動、戦後自由主義、そしてゆとり教育。今回は第四波だそうです。

大正自由教育運動は、19世紀末期から20世紀初期にかけて欧米で活発化していた新教育運動が日本にも輸入されてきた。内容は、画一的な教育から、子供の関心や感動を中心に自由で生き生きとして教育体験の創造を見ぞそうとした。戦後自由主義はGHQによる教育改革。最後は、寺脇研氏で有名なゆとり教育だが、おそらく浅野氏はそれらすべての教育改革を評価しているのだろうと思われる。

ただ、私は、教育を語る時に、すぐに海外の例の鵜呑みや今までの教育の揺り戻しだけでやっていたらいつまでたっても、犠牲になるのは子供たちだろうと思っている。まず、日本には、昔から人を育てる、素晴らしい仕組みがあるのでそれを是非大切にしてください。例えば、伝統芸能の世界は師匠と弟子の一对一の信頼関係から、あらゆる技術や知識が受け継がれ、それは、職人の分野でも同じでしょう。これは絶対に無くしてはならない教育の世界。漁師でも、木こりでも、百姓でも、こういった一次産業も根本は一对一の師弟関係があってこそ、技術は受け継がれる。これを絶えさせてはいけないと思う。

そして、ついでに何か新しい道具があれば、部分的にはそれを取り入れてもよいと思っている。

最後は、目の前の子供たちをじっと見る事。

日本の教育が本当に日本らしい方向に立ち返っていくことを心から私は望む。